

森林・水環境保全のための実証活動支援事業（新規）

1．趣 旨

アフリカやアジアなどの乾燥地においては、飲料用・生活用・産業用の水不足や砂漠化問題への関心が非常に高まっている。歴史的に見ると、過剰伐採等による森林減少が砂漠化につながった例がある。また、森林減少が少なからず影響を及ぼしている気候変動は、洪水のみならず渇水の危険性をも増加するとされている。このため、地球環境保全、人間の安全保障、貧困削減等の観点から、長期にわたって森林復旧を推進することが重要である。

しかしながら、乾燥地において植林活動など植生復旧を実施する場合、森林自体も水を消費するものであるため、短期的に見れば、地域の水収支バランスの悪化など負の影響を及ぼす可能性があり、植林実施箇所や管理手法を適切に選択する必要がある。

本事業では、砂漠化や水資源問題が深刻化する地域において、水収支バランス等に対する植林活動の短期的な負の影響を考慮しつつ、現地で適切な植林候補地を選定するとともに、現地で適用可能な森林管理の実証的な活動を行い、途上国の現地住民等へ得られた知見・技術の普及を図る。

2．事業内容

（1）植林候補地選定手法検討

現地調査や衛星画像等の活用により、対象地域の砂漠化や水資源・森林植生分布状況、住民の森林利用状況、現地政府や団体等のニーズ等を把握し、植林活動の候補地選定を行う。

（2）森林造成・管理手法の提案

森林造成・管理による砂漠化や水資源問題の緩和が期待される地域を対象として、住民の協力を得つつ現地で森林造成・管理等に関する実証的活動を行い、現地で適用可能な水収支バランスの変化に配慮した緑地回復の手法を提案する。

（3）研修及びワークショップの実施

行政職員及び農民等への研修やワークショップを通じて、事業成果の普及を図る。

3．事業実施主体

民間団体

4．補助率

定額

5．事業実施期間

平成21年度～25年度（5年間）

6．平成21年度予算額

10,817千円（0）千円

（林野庁計画課）